

二〇二六年二月二日(参加者四名)

臘梅の花疎となりて空真青	董雨
梅林の高きに一服茶屋まんじゅう	よし女
せせらぎの楽目覚めし芽木の宿	澄子
点描の如くに森の木々芽吹く	こすもす
投げ入れの梅伸びやかに祈禱殿	康子
鎌倉を望む古城址芽木香る	むべ
広縁にお薄賜る梅の寺	澄子
梅東風にあひ打ちあへる祈願絵馬	澄子
鳶の笛一と際高く芽木の山	よし女

若鮎句会秀句・みのる選・二〇二六年二月二八日